入居者インタビュー『自分の人生は自分で決める』

磯村　清子様（79歳）

海外旅行を楽しんでいた磯村さん。入居のきっかけは深夜のラジオ放送でした。

〈夫に仕えて自由のなかった日々〉

結婚した夫は、お酒が好きで5時に仕事を終えるとそのまま飲みに行き帰ってくるのは11時。玄関に三つ指ついてお迎えしろと言わんばかりの煩い人だった。友達と旅行に行きたいと思っても「ご飯や洗濯はどうするんだ」と嫌味を言われ、自由に行かれませんでした。

夫が26年前に亡くなると、拘束がなくなり、今まで行けなかった海外旅行にでかけまくり、65カ国を巡りました。元気に生活しているし、老後のことなど、ましてや老人ホームに入ることなど全く考えもしませんでした。

〈きっかけは深夜のラジオ番組〉

平成21年3月11日、深夜のラジオを聴いていた時、老後の暮らし方について、出演していた栗原みち子さんが「ある程度の年齢になったら、自分で老後の人生を選ぶべきだ。子供に選んでもらうのではなく、自分で選ばなければいけない。」と話されていました。それを聴いて「なるほど、その通りだ。私も自分の将来を決めなくちゃ」と思いました。

ゆうゆうの里の見学会に参加し、ここなら今まで通り自由に生活できるとイメージできたので決めました。入居してからも南極やマダガスカルに旅行し、楽しく生活していました。

マダガスカル旅行にて

〈「もう一度歩きたい」と大手術を決断〉

ところが昨年7月30日、突然左足全体が痛くて歩けなくなり、厚生年金病院に入院。腰部脊椎管狭窄症と診断されました。入院期間は四カ月に及び一時退院したものの車いす状態で、歩くことができませんでした。

そんな時「私も同じ病気だったのよ」「私は手術したわ。今は全然痛みもないし、あなたもした方がいいわよ」と入居者が親身になってアドバイスをしてくれました。「もう一度歩くには手術するしかない」との強い思いが募り、手術することを決心しました。

無事に手術が成功すると、「杖をついて歩くのは嫌だ、自分の足で歩けるようになって退院する」と心に決め、一生懸命リハビリに励みました。

退院した時には「良かったね」と多くの入居者が声をかけてくれて、とても嬉しかったです。職員も入居者も本当に優しかったです。子供がいてもこんなに長期間になったら無理だったと思います。私の選択は間違っていなかったと思いました。

今はだんだん筋力も回復してきています。この前、山梨のバスツアーに参加できた事は、大きな自信となりました。

旅行にでかけられない間は、もっぱら読書三昧です。これからどれだけの本が読めるか新たな挑戦をしています。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇

次々と目標を定め、積極的に努力し人生を楽しんでいる磯村さん。どんな困難にも負けず自分の意思を持って乗り越えようとする姿に感動しました。